S-H26-372

新しい科学技術イノベーション政策下における理解増進拠点の在り方

(公社)科学技術国際交流センター　国際交流企画アドバイザー　　干場　静夫

１．理解増進拠点の歴史的検討

自然科学に関する資料を収集、保存して公衆の観覧に供し、調査研究を行う国の機関は科学博物館であり、その淵源は明治８年に創設された教育博物館であったとされている。しかしながら新しい科学技術イノベーション政策下における理解増進拠点のあり方を検討するに当たっては、科学博物館のみを対象として考察しても必ずしも十分ではない。

科学技術イノベーション政策と関係する組織としては物産会、博覧会、博物館、博物局、博覧会事務局などがあり、博物館にしても（勧業）博物館、教育博物館、（集古）博物館、科学博物館等があった。

これらの組織が時代の要請に応じて変化するにつれて、科学技術イノベーション政策の担い手も変わってきていた。これらの歴史的変遷を第２章では明らかにした。

○名称：物産会、博覧会、博物館、博物局、博覧会事務局
○主務官庁：文部省、太政官、内務省、農商務省、宮内省
○内容：（勧業）博物館、教育博物館、（集古）博物館、科学博物館

この中で特に東京教育博物館→東京博物館（大正１０年改組）の博物館の行った特別展覧会はユニークであるとともに社会経済の関係を意識した科学技術イノベーション政策と密接に関係すると考えるからである。ここでは１８回にわたって行われた特別展覧会の概略を眺めた。

２．新しい拠点のあり方の検討

（１）科学館の一般的特徴

先ず、科学館のおかれている現状について調査を行った。アンケートに表れた科学館の状況を列挙すれば次のとおりである。

①設置主体は公立が多い（７７％）。
②設立時期は１９８１－１９９０年がピークをなし、設置後２５年以上の科学館が過半を占める（６０％）。リニューアルを進めている館もあるが、回答のない館も多い。
③指定管理者制度の導入されている科学館は２５％である。
④科学館の最多利用者層は一般客とするものが最も多く（７２％）、学校・団体などの見学をしのぐ。
⑤年間運営費は、３億円以上から５００万円以下まで多様である。ただし資料購入費は５０万円以下の館が圧倒的に多い（３８％。人件費や設備費に使われていると思われる）。

⑥企画展は毎年実施されており、複数回実施している館も多い（６６％）。
⑦企画展の予算は２０００万円以上をトップに多様であるが、５０万円以下が最も多い。
⑧学芸員数が不在の館も多い（２５％）一方で、１０名以上の学芸員を擁する館も多く（１８％）二分化している。
⑨明確に新たな企画や導入予定の展示等を予定している館は多くはない（１９％）
⑩科学館の現在の課題は資金不足、展示物の老朽化であり、ついで人材不足も掲げられている。
⑪館のアピールポイントとしては最新鋭設備・参加型の実験教室・地域特有の展示が多かった。

以上から、現在の科学館は、①設置年数の長いものも多く、②運営経費の確保・人材の確保は多種多様であるが、総じて資料購入費や企画展経費は十分確保されておらず、③新たな企画や導入予定の展示等の予定が立っていない館も多く、多くの館で資金不足、展示物の老朽化、ついで人材不足が課題となっていることが浮かび上がった。

（２）先端的設備（８Ｋスーパーハイビジョンシステム）構想

以上を勘案し、次のようなメリットが考えられる８Ｋスーパーハイビジョンシステムを科学館等における将来の先端設備の候補として「８Ｋスーパーハイビジョンシステムによる先端的科学技術コンテンツの科学館への提供構想」（別図１）をまとめた。関係専門家の意見を徴した上で、そのフィジビリティの調査を行うこととした（別図２）。

【別図１】
【別図２】

（３）先端的設備（ＳＨＳ）に関するアンケート調査結果

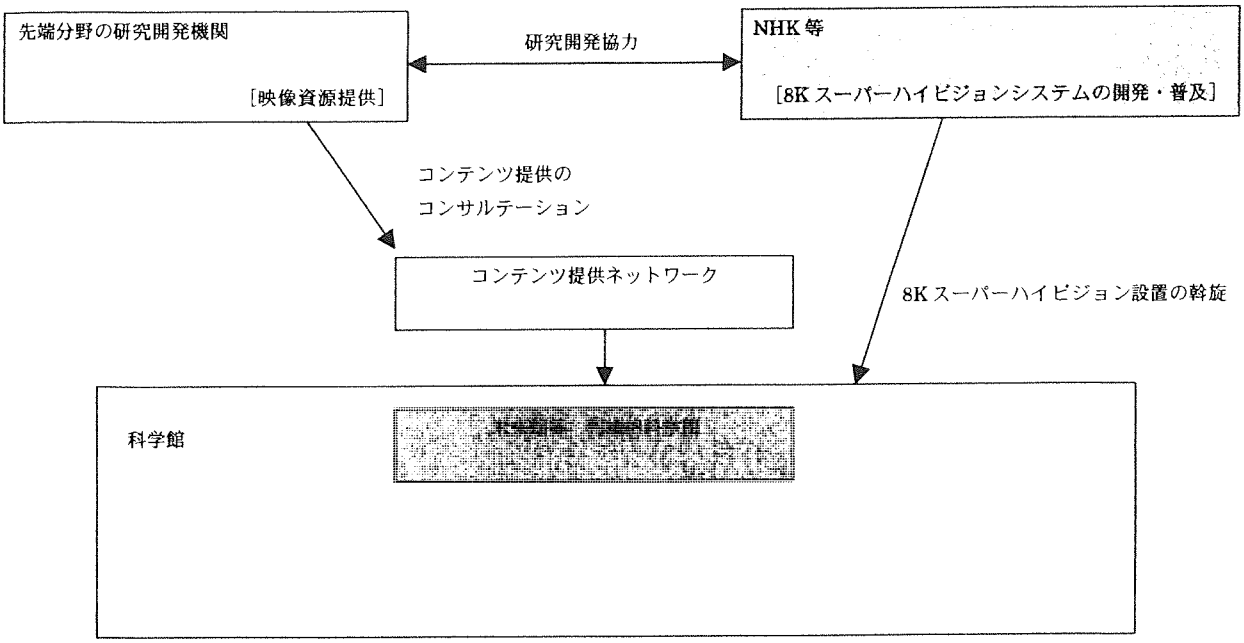
（２）の意見を踏まえ科学館に対するアンケート調査を実施することとし、まずＳＨＳに関するアンケートを設計することとした。アンケートの設計に当たっては上記①～④の専門家にも意見を求めた。ＳＨＳの構想については本調査で初めて提案されたものであり、科学館でＳＨＳの詳細を承知していない科学館も多いため、基本的なデータを得ることを目的とした調査とした。

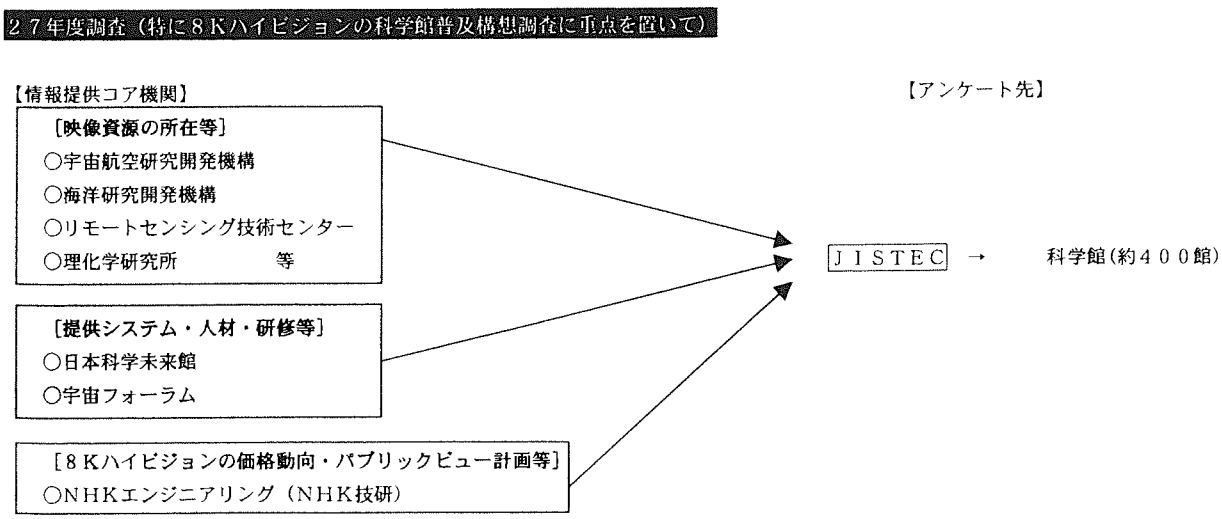
全国科学館に対して実施したアンケートの結果としては、現時点で明確な態度を示せない回答が半数近くあるものの、明確な表示をした科学館にあっては、システムの導入を希望しないし興味があると回答した科学館が半数を超えた。また、導入を希望するか否かとは別に、ＳＨＳを生かしたコンテンツ分野としては「地球映像」「宇宙映像」分野の回答が多かった。ＳＨＳ利用に対する期待として、「一般の人々の科学技術に対する啓蒙効果」「集客力アップ」があげられ、科学館の魅力増大とイノベーションの共創に対する効果が期待されることがうかがわれた。導入に関する問題としては「費用」「メンテナンス頻度」が指摘された。自由記述を含めた回答全般として、①現在高額に及ぶと予想されるＳＨＳの導入費用が今後いかに低廉化するか、②先端科学技術のコンテンツの整備がいかに図られるかが導入の決定ないし導入の時期に影響することがうかがわれた。

この調査を踏まえて、より信頼性のある制度設計を行うことで構想を推進することが可能であると考える。特に国ないし関係者の協力により、一層の調査研究が進められることが望ましい。さらには、これらを踏まえて、新しい科学技術イノベーション政策下における理解増進拠点（科学館）に対する施策が講ぜられることが有意義であると考える。

【別図 1】

8Kスーパーハイビジョンシステムコンテンツの科学館提供の長期構想



【別図 2】

ＪＩＳＴＥＣ科学館調査等の進め方